

草加市総合教育会議議事録

平成28年度第1回

平成28年度第1回草加市総合教育会議

平成28年10月27日（木）午後3時30分から

草加市役所本庁舎教育委員会会議室（3階）

○議 題

協議・調整事項 草加市教育大綱に係る進捗管理について

○出席者

市 長	田 中 和 明
教 育 長	高 木 宏 幸
教育長職務代理者	村 田 悦 一
教 育 委 員	井 出 健 治 郎
教 育 委 員	小 澤 尚 久
教 育 委 員	加 藤 由 美

○説明員

総合政策課長	芝 田 昌 明
総務企画課長	伊 藤 寿 夫
指 導 課 長	中 村 常 雄
子ども教育連携推進室長	嶋 田 弘 之

○事務局

総合政策部長	小 林 勝 治
総合政策部副部長	多 田 智 雄
総合政策課	亀 田 仁 志
総合政策課	古 庄 一 茂
教育総務部長	今 井 規 雄
教育総務部副部長	三 浦 伸 治
教育総務部副部長	青 木 裕

学務課長 関根 秀一
総務企画課庶務企画係長 山岸 亮

○傍聴人 1人

午後3時30分 開会

◎開会の宣言

○小林総合政策部長 ただ今から平成28年度第1回草加市総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます、総合政策部長の小林でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

また、本日は傍聴の方が1名いらっしゃっておりますので、併せてよろしくお願いいたします。

◎配付資料の確認

○小林総合政策部長 それでは、本日の協議・調整事項に入ります前に、お配りしております資料の確認をさせていただきます。

はじめに「会議次第」でございます。続きまして「草加市教育大綱」でございます。続きまして「資料1 幼保小中を一貫した草加の教育」、「資料2 子ども教育の連携推進の基本理念」、「資料3 算数・数学 数と計算・数と式(素案)」、「資料4 知・徳・体(生きる力)の育成について」となります。皆様、資料はお揃いでしょうか。

また、これまでに子ども教育連携推進室で取り組んできました事業を、冊子として取りまとめたものをお手元にご用意させていただいております。

○小林総合政策部長 それでは、これから議事に入らせていただきます。議事進行につきましては、田中市長にお願いいたします。

○田中和明市長 それでは、議長を務めさせていただきますので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。次第に基づきまして、進めさせていただきます。

◎協議・調整事項 草加市教育大綱に係る進捗管理について

○田中和明市長 本日の協議・調整事項ですが、「草加市教育大綱に係る進捗管理について」でございます。まずは、事務局より大綱に係る進捗管理を協議・調整事項とした経緯について説明をお願いいたします。

○芝田総合政策課長 それでは、草加市教育大綱に係る進捗管理を協議・調整事項とした経緯

につきまして、ご説明させていただきます。

昨年度、教育委員会制度が約60年ぶりに大きく変更され、教育行政について、より民意を反映させるため、市長と教育委員会が意見交換する場として総合教育会議が設置されました。

昨年度は、教育委員会において、教育行政の方向性を示す第二次教育振興基本計画を策定する年度であったことから、この計画の総論部分について総合教育会議の場でご協議いただき、本日お配りさせていただきました草加市教育大綱を策定しております。

本年度第1回目、本日の会議では、教育大綱に掲げた理念の実現に向け、主な施策の進捗状況と次年度の方向性をご報告し、今後の教育行政の方向性について共通認識の醸成を進めてまいりたいと考えまして、提案させていただいたものでございます。説明は以上になります。

○田中和明市長 ただいま事務局より協議・調整事項についての説明がありました。

それでは、早速ですが、大綱に係る進捗管理について、事務局より説明をお願いいたします。

○伊藤総務企画課長 説明させていただきます。まず、進捗管理の説明の進め方についてでございますが、お配りいたしました大綱の2ページ目をご覧ください。

本大綱では、「生きる力をともに教え育てる草加の教育」を基本理念とし、その実現に向け、基本構成として、「子ども教育の推進」「社会教育の推進」「人権教育の推進」を大きな柱とし、そのもとに5つの基本目標を設定し、施策を展開していくものとしております。

教育委員会では、今後4年間の方向性として、「基本構成Ⅰ 生きる力を育てる子ども教育の推進」の中で、幼稚園・保育園・認定こども園・小中学校と家庭・地域が連携し、地域社会が一体となって0歳から15歳までの全ての子どもの育ちを、ともに支える子ども教育の連携を更に推進していくこととしました。

そこで、これまでの子ども教育の連携に関する施策の現状と課題、今後の方向性について報告させていただきます。その後、本市の子ども教育のねらいに、次代を担う子どもたちにとって必要な「生きる力」の育成を掲げておりますが、「生きる力」を支える「確かな学力・豊かな心・健やかな体」、いわゆる知・徳・体をバランスよく育むために取り組んでいる施策の現状や課題、今後の方向性を報告させていただきます。

それでは、まず始めに、子ども教育連携推進室長から、子ども教育の連携に係る取組についてご説明を申し上げます。

○嶋田子ども教育連携推進室長 子ども教育連携推進室から、これまでの、子ども教育の連携に関する取組の現状と課題についてご説明申し上げます。

子ども教育の連携に関する取組の目的は、子どもの育ちと学びの連続性を確保し、「生きる

力」の3要素である、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力を総合的に育むことです。

平成24年6月に実施した、子ども教育の連携に関するアンケート調査の結果と子ども教育連携推進委員会での協議を踏まえ、同年2月、市内全ての子どもたちに15歳までに身に付けてほしい力を、「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる」と定め、草加市幼保小中教育の指針となる「目指す『草加っ子』」に15歳の姿として示しております。この15歳の姿は、国の示す「生きる力」を踏まえ、本市の子どもの実態に即して具体化したものです。

「資料1 幼保小中を一貫した草加の教育」の表紙をご覧ください。昨年度まで、第一次草加市子ども教育連携推進基本方針・行動計画に従って、目指す「草加っ子」の具現化を目指し、幼保小、小中それぞれの円滑な接続に向けた、交流・連携に取り組んでまいりました。

ここで、交流・連携活動の一部をご紹介します。園児が小学校に行って、配膳、片付けや、児童と一緒に楽しく給食を食べるといった「交流給食」や、中学校区内の小学校に生徒が出向き、児童と朝の挨拶を交わす「あいさつ運動」。次の見開きページをご覧ください。幼児と児童の「生活科での交流」、中学校教員が学区内の小学校で授業を行う「乗り入れ授業」などに取り組んでまいりました。

このような取組の成果物としまして、見開きページにあります幼保小の円滑な接続のための「草加市幼保小接続期プログラム」と、見開きのページ右側にございます、小中の円滑な接続のための「草加市小中連携プログラム」を策定することができました。

また、アンケート調査の結果から、子どもの育ちに関する成果として、基本的な生活習慣の習得状況やコミュニケーション能力といった社会性など、様々な点で改善が見られました。これは、交流・連携を通して、自分の成長の実感や人の役に立った自信など、自己肯定感、自己有用感が育ったことが、改善の要因であると考えております。

交流・連携の取組は、5歳児と小1、小6と中1の、いわゆる接続期の部分的な子どもの育ちに関する課題に対して成果を上げてまいりました。

一方で、学力及び生徒指導上の課題は、部分的な取組では解決につながらないものがあります。例を挙げますと、中1の家庭学習に取り組む時間は増加しているものの、中2以降には増加傾向が見られないことや、小6から中1の不登校の出現率の上昇は抑えられておりますが、小中全体での不登校の減少につなげる必要があることなどです。

今後、0歳から15歳までの子どもの育ちと学びの連続性を見通した一貫した取組により、改善を図る必要があります。

そこで、5歳までの保育の充実と義務教育9年間の充実を図るため、見開きページにありま

す「草加っ子にこにこわくわくプラン」と、「マスマス単元ナビ&ガイド」を昨年度末、策定いたしました。

これらのことを踏まえまして、今後の方向性についてご説明申し上げます。

「資料2 子ども教育連携推進の基本理念」をご覧ください。

今年度から第二次基本方針・行動計画では、基本理念を、0歳から15歳までの「学び」「心」を結ぶ幼保小中を一貫した草加の教育の実現により、自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子どもを育むこととしております。

乳幼児期の教育は、「生活」や「遊び」そのものが「学び」です。これらを通して、自己肯定感が芽生え、環境に主体的・意欲的に関わりながら、好奇心や感動する気持ちなど、「心」が生まれ、依存から自立に向かいます。

小学校教育へは、この「遊び(生活)」を全ての教科等の「学び」に、好奇心や感動する「心」を豊かなたくましい「心」につなぎます。

さらに、中学校教育へは、それぞれを専門性の高い「学び」、自立に向かう「心」につなぎます。

そして、各園・各学校とともに、家庭・地域が一貫して自己肯定感、自己有用感を育み、目指す草加っ子を実現することが、幼保小中を一貫した草加の教育です。

一貫した草加の教育の実現に向けまして、教育委員会では「草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラム」を策定いたします。これは、各中学校区が15年間を見通した教育課程を編成する際の全体像・骨組みを示す資料となるものです。各教科等の学びの土台となる幼児期の経験をスタートとして、専門性の高い中学校修了までの学びの系統性を明示します。このことで、子どもたちは経験を整理し、論理的・発展的・体系的に学ぶこととなり、身に付いたことが、生活や社会に生きて働く力になると考えます。この幼保小中一貫標準カリキュラムを、作成中のものを使ってその一部を紹介いたします。

「資料3 算数・数学 数と計算・数と式(素案)」をご覧ください。

「学び」のつながりの欄をご覧ください。園の生活や遊びを見ていると、集めた木の実を数えたり、友達に分けたりすることや、運動会の玉入れでかごに入った玉を皆と一緒に数えたり、数を比べたりするなど、生活や遊びを通して数量に関する豊かな経験を積んでいます。これが、「小学校教育につながる幼児期の経験」であり「学びの芽」です。

この「学びの芽」を土台として、算数で学ぶ2位数の学習、つまり二桁の数の学習やたし算・ひき算について幼児期の経験を整理し、論理的に学ぶこととなります。さらに、学んでいるこ

とが、今後どのような学習にいかされるかを示すことで、発展的・体系的に学ぶことができます。幼児期の数量に関する豊かな経験は、ゆくゆくは中学校3年生の学びにまでつながってまいります。

標準カリキュラムにより、子どもたちが積み上げてきた生活経験や学習経験を土台として授業が展開され、子どもたちは、自信をもって学習に取り組めようになるとともに、今、学んでいることが、今後どのような学びにつながるかを示すことで、学習への意欲や期待が高まると考えます。このことは、自己肯定感を育んでいくことにつながると考えております。

標準カリキュラムを全ての教科等で策定し、各学校区の幼保小中を一貫した草加の教育の実現をサポートします。このことで、各学校では、自ら学び、心豊かに、たくましく生きる草加っ子を育む教育活動が実施されることになると考えております。

資料1のリーフレットに戻りまして、裏表紙をご覧ください。

家庭教育は全ての教育の出発点と言われます。そこで、子ども教育の連携に関する取組の関心と理解を深め、協力を得られるようにするとともに、子ども教育の取組の理念の浸透を図るために家庭教育への支援を継続してまいります。

関心と理解を深め、協力を得られるようにするために、目指す草加っ子や、幼保小接続プログラム、小中連携プログラムに対応した保護者向けリーフレット「笑顔で子育て」、「もうすぐ一年生」、「エンジョイ中学校生活」を今後も配付してまいります。

また、このリーフレットの内容に対する理解とともに、本市の理念の浸透を図るため、著名な学識経験者による子育て講演会と、家庭教育アドバイザーによる親の学習講座を開催してまいります。以上、子ども教育の連携に関する取組の説明でございます。

○田中和明市長 ありがとうございます。

ただ今、事務局より子ども教育の連携についての説明がございました。このことについて、意見交換をしてみたいと思います。

教育委員の皆さんが、草加の教育について日頃考えていることや、あるいはもっとこういうことをやってみたらどうだとか、こんなことを考えていくべきではないかといったようなご提言など、それぞれの立場から自由にご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

小澤委員、お願いします。

○小澤尚久委員 幼保小中の連携については、子ども教育連携推進室を中心にして、市全体で取り組んでいる成果が様々なところで表れていると、そのように私たちも考えているところで

特に今度の新田中学校等を中心とした研究発表がありますけれど、そこで小学校と中学校の教員で乗り入れ授業や、そういったことも含めて、さまざまな連携が進んできているなど、そんなふううれしく思っているところです。

それを、今後、更に進めていくには、ということで考えてみたのですが、幼保小の交流について、今までの成果をいかして、教職員レベルでの交流というのを、もっと増やしていくとよいのかな、そんなふう思っているところです。いろいろな場面で、お互いの授業ですとか、保育ですとか、そういったことを見る機会というのは設けていただいているところですが、なかなか、連続して子どもたちの成長を見取っていくというところについては、まだこれからなのかなと思っています。

そういう意味で、そういった機会を設けると同時に、教員レベルでの交流、人事交流も含めて、いろいろとクリアすべきところはあると思いますが、例えば、小学校の教員が一定の期間、保育園や幼稚園に出向いて、それぞれの様子を見て、保育に参加してみたり、幼保の教員や保育士が小学校に出向いて、様々な場面を見たり、一緒に授業に参加してみたりとか、そういったところを少し連続して行うことによって、両方の理解が一層進んで、こちらの連携も進んでいくのかなと、そんなところを期待しています。こういったことが、今後進んでいくと、この連携教育というのが、先々楽しみだなと、そのように考えているところです。以上です。

○田中和明市長 ありがとうございます。

今、小澤委員から出されました教職員との交流を増やしていくことについて、例えば、小学校の教員が保育園に出向いて研修をするというようなこともどうだろうということですが、これは教育委員会で、教職員の先生が保育園に行かれていますよね。

○嶋田子ども教育連携推進室長 交流連携の一環として、小学校の教員が、小学校区内にある幼稚園もしくは保育園と協力をして、保育体験を行っています。

また、これをもっと深めていかなければなりませんし、今、小澤委員さんからいただいたご意見に関連することとして、幼児期の教育の成果として見えるものについては、小学校の教員も理解しています。例えば、靴箱に靴がきちっとそろっているとか、先生の話静静地に聞いているという点です。けれども、先ほど、標準カリキュラムの説明の中で示しましたような小学校教育の土台となる幼児期の経験は、小学校教員にとって見えにくい部分です。これを共通理解することが、今後の課題だと思っています。

交流連携だけでクリアできるものかどうかというのは、答えは出ていませんが、次期の学習指導要領の改訂にも問われているところですので、見えにくい部分の理解を深めていく方策を

考えていかなければいけないのではないかと思います。

○田中和明市長 交流連携は、夏休み期間で行うものですか。それは全ての小学校で、新人の先生が対象ですか。

○嶋田子ども教育連携推進室長 年次研修で夏休み期間中に、新人、つまり初任者を対象として市の初任者研修のプログラムと、5年次経験者を対象とした研修のプログラム中で異校種体験として、市立保育園で保育体験を行っています。

○田中和明市長 それだけで終わってしまっているということなので、これから教職員の交流というか、そういうものをもっと深めていったらどうだというようなご提案ですね。

○小澤尚久委員 はい、そうです。

○田中和明市長 ありがとうございます。

ほかには何かございますか。加藤委員、お願いします。

○加藤由美委員 この連携や、草加市の子ども教育、子どもを育てようという力は、本当に素晴らしいと思っています。でも、恥ずかしながら、私は正直なところ、教育委員をさせていただいて、草加市の教育について深く知った次第でございます。

子ども教育の連携を進めていく上で、もっともっと家庭・地域に草加市の教育のことを知っていただく必要があると私は感じます。以上です。

○田中和明市長 学校応援団とか、あるいはパトロール隊とか、町会もありますよね。そういったことは、ごくごく一部なのかも分かりませんが、草加の連携を進めている事業について、もっと家庭や地域にPRするような、例えば、「教育だより」をもっと活用して、PRをしていくということも大切だと思います。そういったことも参考にさせていただければと思います。

ありがとうございます。他には何かございますか。村田委員、お願いします。

○村田悦一教育長職務代理者 この子ども教育連携のプログラムにあります、目指す「草加っ子」像、0歳から15歳までで、「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる」草加っ子、とありますが、これは漠然としていると思うのです。

これは当然、生きる力ということで、自ら考え、正しく判断できるということですが、私は、義務教育後、学校教育に関わらない子どもたちもいるわけですが、中学卒業後も、自分の人生を自分で切り開いていける、そんな15歳になってほしいなと思います。そのために何が必要かという、志です。自分の強い意志で人生を切り開いていくという思いや志を抱いて、それを追い求め、実践していく、そんな15歳になってほしいと思います。そういった意味で、例えば、卒業式にできるか、卒業式の近くになるか分かりませんが、立志式、草加市では15歳

のときに今まで学んできたことをもとに、私はこんな形でこれからの人生を生きていく、社会で有用な人間になっていくというようなことを、保護者や、あるいは地域の方がいるところで、自信をもって発表し、そのことをもとに生きていくような、そんな子どもたちに育つ、具体的なそういう姿が、もし、見えてくると、すばらしいのかなと思います。

自分の志をしっかりとって、社会の中で生きていくということ、それが私は大事なのかな、と思います。それが15歳の姿として見えるようになると、より具体的になるのかなと。そのためにこういうプログラムも、当然、役割を果たしていると思うんですが、具体的な像として、そんなことを私は考えております。

○田中和明市長 15歳で、いわゆる0歳から15歳までで終わるのではなくて、その後のもう一歩、何かが必要ということですね。

ありがとうございます。ほかには何かございますか。井出委員、お願いします。

○井出健治郎委員 2点ございます。1点目は、この連携が始まって4年から5年経ちますが、これは一つの事業であるし、政策であるので、そろそろ評価をするべきだろうと思います。

では、どう評価するかというと、アウトカムみたいなものになるのですが、私は、なぜこの連携を始めたのかということについては、いろいろな人の思いと意図があるので、これが、というわけにはいかないですが、やはり学力を向上させることが、私としてはこの連携にかけていたことで、その評価をしていくに当たっては、学力の調査というものが例年、経年的にあって、この連携事業がそこに寄与するというか、役立たないといけないと思っているので、これはいつも思っていますが、この連携事業の成果というのは、やっぱり私は学力向上にあって、それは何とか、これからもそうですけど、実現してもらいたいし、評価の一つは大きくそこにあると思っています。成果が上がっているか、上がっていないかというのはちょっと別にして、私はそこにこれからもこの連携の着地点は置いていきたいなと思います。

それから2点目ですが、室長さんに資料3の説明をしていただきましたが、これはすごくいいことだと思っています。これが各教科に流れていく、つまり、長い間のカリキュラムというのはすごく重要で、これは早く作っていただきたいし、早く他の教科も見てみたいと思うのと同時に、言い方は変ですけど、もし、何か問題を解く場合、算数であろうが、数学であろうが、社会であろうが、その問題の意図が読めないと、結局、その問題の文章を理解できなければ問題が解けるわけがないので、今、算数とかだけ先行していますけれども、例えば、国語と社会とか、国語と理科ではどこでどうつながるとか、理科と数学だと、ある式を使うとか、必ず、各教科だけではなくて、何かを横串にすると、多分、他の教科とのつながりというのがあ

って、それはもしかすると学力にいきってくるかもしれないと思っているので、こればかりで、いずれはマトリックスみたいになってしまうのかもしれませんが、何かそんなものも考えていただくとありがたいかなと思います。

1点目は厳しめのことですが、もう1点の方は、より充実をさせていただきたいなと思っています。以上です。

○田中和明市長 ありがとうございます。

私も0歳から15歳までの、いわゆる子ども教育の連携というのは、最終的には学力向上だと思っています。いろいろな施策があると思いますが、全てが学力向上につながっていけばというような形で教育委員会は進めていると思っておりますので、行政としてもそのような方向で進めていかなければいけないと思っています。

そして、やはり、数学、算数だけではなくて、横串が何かあれば、またおもしろい発想かなと思います。国語と社会、社会と理科、理科と数学、そういうような形でつながっていくものが何かあると思いますので、その辺は教育委員会でも検討していかなければいけないし、行政としても取り組んでいかなければいけないと思っています。よろしくお願いします。

○高木宏幸教育長 この子ども教育連携は、先ほどから話に出ているように、これまでの5年間は連携、そして連携から一貫へということで、今、進めていこうと思っています。その連携の中で、どちらかという今までは、幼保小の、あるいは小中の接続、その部分に焦点を当てながら、滑らかな接続をすることで、ギャップの解消を図り、中1ギャップや小1プロブレムに出てくるような問題の解消、そこをねらいとしながら、それぞれの小学校や中学校での滑らかなスタートになっていくのではないかと考えています。そこで、先ほど小澤委員さんからも出ましたが、教職員の交流を深めたことによって、お互いの園や学校、校種の違いを超えて、その部分の先生方の指導の在り方、あるいは教育内容を次の校種が知ること、非常に滑らかな接続と同時に、先生方自身が自分の足りないところ、小学校教諭でいえば、幼稚園、保育園がどこまで子どもを育ててきているのかというところが、分かるようで分かっていない。あるいは、中学校教員も中学校の教育課程、カリキュラム上、どう教えるかということは専門性をもっているけれども、小学校でどういうことを学んできたか、小学校の先生方はどういったところに配慮をして子どもたちを指導してきたかと、そういうところの十分な理解がなかったと思います。そういう意味では、連携教育をやったことで、先生方がお互いの校種を超えての理解が深まったかなと思っています。

そういう中で、先ほど嶋田室長が言ったように、その一つの成果物としてここにあるように、

様々な事例集やプログラムができてきています。これは、今度は、カリキュラムを作ることに
よって一貫した教育にしていく中で、これから我々の課題は、いかにして、この作り上げてき
たカリキュラム、あるいはこのプログラムを、着実な実践に向けて動くかということになりま
す。この実践はまだ、地域や学校によって差がありますが、着実に進めていき、そのことによ
って、学力向上をねらいます。

この学力向上は、健康とか、心とか、密接に関連をしているので、それは、学力向上をねら
っていけば、知・徳・体バランスのとれたところにつながっていきますし、心の教育を進めて
いけば、そこにつながっていくと思いますので、後で、知・徳・体についても議論することにな
るかと思いますが、この知・徳・体のバランスのとれた子どもたち、そしてそれを一貫した
教育を進めるということで行きますと、加藤委員さんがおっしゃったように、家庭・地域にも
理解をいただいて、更に一体化して進めていくと。これを着実に教育委員会としては進めてい
かないといけないと思っていますし、やっていきたいと思っています。

○田中和明市長 新田小学校で研究発表もあるわけですね。そして、話を聞きますと、全国
からもかなり視察に見えているという話も聞きます。

それだけで終わっているような気がしますので、加藤委員さんがおっしゃったように、本当
にPR不足ではないかな、そういうところがあると思います。草加の行政もそうですけれども、
なかなか、マスコミを使ったPRというのが下手なのですよね。新聞で取り上げてくれれば、
全国ネットになるわけですから、それがいいPRになりますし、地域の方々、あるいは団体の
の方々やPTAの方々も、このような草加の子ども教育の連携に対して理解がどんどん深まって
いくと思います。市の広報、あるいは「教育だより」、そういうようなものを使って、もっと
もっとPRをしていく。そして、視察に来てもらっている市の紹介をしながら、地域の人たち
に、あるいは家庭、子どもたちにビラを持っていってもらって、家庭の方でも知っていただく
ことがこれからも必要だと思いますし、もっと積極的にPRをしていかなければいけないのか
なと思います。これは、全国的にもすばらしい事業だと思っていますので、これをもっと広め
るためには、そういうところが必要かなと思っています。

他には何かございますか。この点についてはよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○田中和明市長 それでは、子ども教育の連携に係る部分については、以上で終わらせていた
だきまして、次の取組について事務局より説明をお願いいたします。

○伊藤総務企画課長 続きまして、指導課長より、知・徳・体それぞれに係る施策の現状と課題、今後の方向性についてご説明申し上げます。

○中村指導課長 それでは、知・徳・体に係る現状と主な取組についてご説明いたします。

「資料4 知・徳・体（生きる力）の育成について」をご覧ください。

生きる力を育むことは現在の学習指導要領の理念であり、変化の激しいこれからの社会を生き抜くためには、知・徳・体をバランスよく育てることが大切であると指導課としてもとらえております。

そこで、各学校での生きる力を育成する取組を草加市教育委員会として支えることで、知・徳・体の調和のとれた児童生徒を育成します。

それでは、始めに、知・徳・体の知、「学ぶ力を伸ばす児童生徒の育成」についてご説明いたします。

まず、現状についてでございますが、学力の一つの指標として全国学力・学習状況調査の結果がございます。平成28年度の全国学力・学習状況調査において、小学校・中学校の国語、算数、数学の平均正答率につきましては、昨年度よりも、全体として全国平均との差を縮めました。国語、算数、数学とも全国平均を下回っております。

また、全国学力・学習状況調査において児童生徒に対して実施された質問紙調査において、「授業で話し合う内容を理解して、相手の考えをしっかりと聞き、自分の考えをしっかりと伝えている」については、本市の児童生徒はともに全国平均を上回っておりました。

これらのことを踏まえまして、学力向上に向けての主な取組でございますが、全ての児童生徒に「確かな学力」を身に付けさせるために、「①授業改善・指導力の向上」、「②学習機会の拡充」、「③学習意欲の向上」、「④落ち着いた環境づくり」、「⑤子ども教育の連携」を5つの柱として取り組んでおります。具体的な取組については、本年度新たに始めた取組、また拡充した取組など代表的なものについて申し上げます。

「①授業改善・指導力の向上」につきましては、市独自の学力・学習状況調査を1月に実施し、1年間の学習の成果を把握するとともに、具体的な授業改善策を策定できるようにしていきます。

「②学習機会の拡充」につきましては、これまでも草加寺子屋（土曜学習）として自学自習の場を土曜日に設けておりましたが、今年度より年間で土曜日を5回、夏季休業中の3日間を授業日といたしました。

「③学習意欲の向上」につきましては、今年度、9校にタブレット型コンピューターと電子

黒板を配置するなど、ICT環境を整備いたしました。また、ALTについても、中学校は全校に一人ずつ配置するなど配置を拡大いたしました。

「④落ち着いた環境づくり」につきましては、学級支援員を小学校に派遣しております。

「⑤子ども教育の連携」につきましては、先ほど子ども教育連携推進室長からも説明申し上げましたが、このことが長期的には学力向上に結び付くと考えております。

次に、知・徳・体の徳、「心豊かな児童生徒の育成について」でございます。

現状でございますが、一つの指標として全国学力・学習状況調査の質問紙調査がございます。「自分には、よいところがあると思いますか」という自尊意識を問う質問に対し、肯定的な回答をした本市の児童の割合は約70%、全国の児童の割合は76%、同じく肯定的な回答をした本市の生徒の割合は約60%、全国の生徒の割合は約70%でした。この「自分には、よいところがあると思いますか」という自尊意識については、全国的に低い割合となっておりますが、本市の児童生徒はこの全国平均をとともに下回っております。

一方、「学校の決まりや規則を守っていますか」という質問に対し、肯定的な回答をした本市の児童生徒の割合は95%を超えており、こちらは全国平均を上回っております。

主な取組でございますが、1つ目として、道徳教育の充実を推進しております。これから「道徳」が「特別の教科 道徳」となることを見据えて、指導訪問や研修会で道徳教育の推進に取り組んでおります。

また、2つ目として、市独自の施策として昨年度から「命をつなぐ教育」として日本赤十字社の協力を得て、造血幹細胞移植の学習に取り組んでおります。この造血幹細胞移植の学習も含めて、全ての教育活動で命の大切さを実感できるよう取り組んでおります。

特に、先日、東松山で起きた16歳の少年に係る大変痛ましい事件に中学生が関わっていたことを考えますと、命の大切さを実感させる教育は、大変重要なものと考えております。そのためには自尊感情・自己肯定感を醸成し、命のつながりや命の尊さ、そして人間としての生き方を学ぶことが必要であります。そのために、家庭・地域と協力しながら各校で命の教育に取り組んでまいります。

また、3つ目として、不登校児童生徒の減少に向けて、各校での教育相談の充実を図っております。担任だけでなく、相談員、スクールカウンセラー、そして家庭的な要因で不登校、また児童虐待など、ケースによりましてはスクールソーシャルワーカーも活用しまして個別の問題に対応しております。

最後に、知・徳・体の体、「健康でたくましい児童生徒の育成」でございます。

現状でございますが、一つの指標として新体力テスト及び全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果がございます。

新体力テストの結果につきましては、全体としては、小中学校とも前年度から記録は向上しているものの、県の平均値と比べると下回る種目が多いです。

一方、全国学力・学習状況調査の質問紙調査の「朝食を毎日食べていますか」に対する本市の児童生徒の肯定的な回答については、小中学校とも全国平均を上回っております。

主な取組についてでございますが、指導訪問や授業研究会等を通して、体育、保健体育の授業で児童生徒の体力向上を図るための手だてを講じるよう指導をしております。また、相撲大会、陸上大会、縄跳び大会など、各体育大会を開催しております。

中学校では、部活動が体力向上に大きな役割を果たしており、部活動外部指導者の派遣により部活動の活性化を行っております。

また、栄養教諭、養護教諭を中心とした食育や学校保健を充実し、健康でたくましい児童生徒の育成を図ります。

以上、教育委員会の知・徳・体の取組についての概要についてご説明いたしました。

続いて、資料の右側をご覧ください。教育委員会の取組を支えとしながら、この図にございますように、各学校は児童生徒に、知・徳・体、生きる力を育成しております。もちろん、先ほど子ども教育連携推進室長が申しましたとおり、幼保小中を一貫した全教育活動で児童生徒の生きる力を育てております。

結びになりますが、子どもたちに生きる力をともに教え育てることは草加の教育の基本理念でございます。今の子どもたちがこれからの激動の社会で力強く自分の人生を切り拓いていくために必要な知・徳・体、生きる力を身に付けさせるための取組を、これからも推進してまいります。以上でございます。

○田中和明市長 ありがとうございます。

ただいま事務局より、知・徳・体について説明がありました。このことにつきまして、意見交換をしていきたいと思っております。

先ほどの部分と重なる面があるかと思いますが、委員さん、それぞれの観点で自由に発言をいただければと思います。草加の教育について日ごろ考えていることや、もっとこんなこともどうだろうというようなこともご提言いただければ大変ありがたいと思っております。

いかがでしょうか。村田委員、お願いします。

○村田悦一教育長職務代理者 今、市の美術展が行われていますが、その授賞式で市長さんか

ら「まちの魅力は文化力だ」、こんなご発言がありました。そういう意味で、草加の文化力を向上していくことで、私は、子どもたちの知・徳・体を支え、高めていくのかなと思います。学校だけではなく、市全体でこの文化力ということについてやっていくことが必要なのかなと思います。小学校21校、中学校11校の学校文化があると思うのですが、なかなか自校の学校文化を意識できていないと思います。絵一枚、あるいは歌でも、いろいろな周年行事の中でも、すばらしい合唱、合奏、あるいは吹奏楽、そういったものが個々でばらばらになっているように感じます。今、各地域の公民館まつりも実施されて、私も、各公民館を回って、いろいろな作品を見たりしていますが、すばらしいものがあるのですが、そこで終わって、市全体の文化度というか、市民の方もそういう意識もまだなくて、自己満足の中で終わってしまっているのかなと感じています。市としてもハープフェスティバルなど、いろいろなものがありますから、草加の文化力とか、そういうものについて、その中に学校としての文化、その中に知・徳・体というものが含まれて、そのバランスが保たれていく中で、本当に草加人として活躍できていくのかな、そんな気がいたします。

○田中和明市長 少子高齢化で人口減少の社会になってきているわけですが、そのまちに住み続けたい、住みたいと思っている、いわゆるまちの魅力というものには、いろいろな魅力があると思います。駅に近いからとか、治安がいいとか、そういうものがいっぱいあると思いますが、そこにはやはり市民力とか地域力、文化力があるということが、長い目で見ると、そこに住んでみたいと思われるのではないかなと思っています。

例えば、瀬崎小学校でも浅間神社を中心とした地域には独特の文化があるわけですが、その辺が瀬崎中学校、瀬崎小学校に引き継がれて、体育祭や学園祭、そういうもので発揮できれば、またその地域の違った面が見られると思います。金明町や新田の方では、町村合併をしたときに、全てが長右衛門新田とか、新兵衛新田とか、そういう地名でしたけれど、新しく栄える新栄町とか、そういう地名に変更になったわけですから、そういう文化というものがあるわけです。それをうまく学校でいかしていただければ、おもしろい取組ができるのかなと思います。公民館まつりも、どこの公民館に行っても、すばらしい作品が飾られていますけど、その辺で奇抜なアイデアみたいなのが少しあったらおもしろいかなと思いますよね。

文化力の向上というものは、教育委員会だけではなくて、文化観光課というところが市長部局にもありますし、草加市文化芸術振興条例というものも平成26年には策定しておりますので、その辺で文化力を高めていこうというような施策を行政も取り組んでいきますので、教育委員会とも一緒になってやっていきたいと思っています。

他には何かございますか。加藤委員、お願いします。

○加藤由美委員 私は幼児、小学生に体育、体操を教えています。最近、子どもたちは転んだときにとっさに手が出なくて、自分を支える力というものがなくて、けがをする子が多くなっているような気がします。私たちは小さいころ、よく遊んだと思うのですが、ジャングルジムで高いところに上ったり、雲梯でぶら下がったり、鬼ごっこで思いっきり走ったり、高いところからジャンプをしたりと、遊びの中で基礎体力を付けることが、身体能力を高めることが大切だと思っています。何よりも、体を動かすことが楽しいと感じることがとても大事なことでないかなと思います。最近はいくつか残念なことに、危険だからと排除されてしまうものが多く、危険を回避するための判断力、また、遊ぶための発想や想像力をなくしてしまっているような気がします。

草加市の目指す草加っ子の中にも、身近な自然の現象や、安心して遊べる空間が少なくなっていると書かれています。このことは、家庭と子どもとのコミュニケーションや、地域とのコミュニケーションとか、交流にもつながってくるものではないかなと思います。

○田中和明市長 確かに、遊び場がなくなってきております。公園でキャッチボールもやっちゃだめだ、サッカーのボールを蹴っ飛ばしてもだめだ、何をやってもだめだというふうに示されてきているというのがありますね。

公園でボールを蹴るのは当たり前だと思うのですが、公園に来ている人に迷惑をかけちゃいけないからだめだというような規制がありますので、そういう広場というか、遊び場というものを地域のほうで設けていかなければいけないと思います。

これやっちゃだめだ、あれやっちゃだめだという世の中になっていることはたしかですね。それを伸び伸びとやれるような、地域の人たちが見守ってくれるような、そういう仕組みづくりというか、仕掛けもしていかなければいけないのかなと思います。

ほかには何かございますか。小澤委員、お願いします。

○小澤尚久委員 知・徳・体、バランスのとれた力を育てていくということで、全体的な、特に、知のほうでは全体的な学力のレベルアップだとか、そういったことについて、これから更に進めていくべきところだと考えているところです。

全体的なレベルアップとともに、上位にある子たちの力を更に伸ばしていくという部分も、今後は必要になってくるかなと、そんなことを考えています。部活動でいえば、草加市の広報にも載っていましたが、陸上のほうですごく活躍している中学生の写真が載っていて、あの子たちの活躍場面を更に増やしていくとか、更にそこからもっともっとレベルアップして

いくとか、そういったことというのも、より進めていくのに、連携等がまたよく働いていくのかなと、そんなことを思っています。

知力のほうもそうですが、中学校の先生が乗り入れ授業をしてくださって、中学校ではこんなこともやるんだよということを示してあげることによって、より、知的関心度の高い子たちが、「あ、もっとやってみようかな」ということになったり、体力的なことについても、中学生と練習したらこんなところがもっとすごかったから、もっと努力してみようとか、そんなことを思ったりすることも増えるのではないかな、そんなことを思いました。

また、ちょうど獨協大学との連携等についても進められているところで、草加のそういう知的な環境、体力的な環境というのもすごく整備されてきていると思うので、そういったより高みを見付けようとしている子たち、望んでいる子たちについても、もっともっと活躍の場面があるといいかなと、そんなことを思っています。

○田中和明市長 この前の10月5日号の広報で、瀬崎中学校の桶谷さんが全国大会に出場したということで紹介をさせていただきました。

今度、11月20日号になりますが、栄中学校の体操競技が全国優勝したということで、また、水泳も、全国大会に行っておりますので、それを取り上げながら、市民の人たちにこれだけ草加の子どもたちが頑張っているよというところをPRしていこうということで取り組んでいます。スポーツだけではなくて、他の面でもそういうものが出たら、どんどん取り上げながら、市民にPRしていかなければと思っています。

私はPRが不足していると実感しています。広報にいたときも、何でこんなに載せてくれないのかなと思うこともありましたが、おもしろい記事を、うまく、マスコミにプレスリリースしていけば、絶対、取り上げてくれると思いますので、いい材料はいっぱいあると思いますので、その辺はこれからも、教育行政だけではなくて、市政全般に対してもそういうPRはどんどんしていきます。そのためにシティープロモーションというものを広報の新たな取組に位置付けましたが、まだちょっとその辺が見えていないというところがあります。

今後の号は本当に斬新的な紙面、1面になります。「え、これが草加の広報？」というような紙面になりますので、それが一つのシティープロモーションだと思っていますので、お楽しみにしていただければと思います。PRは本当にしていかなければいけないと思っています。

ほかには何かございますか。井出委員、お願いします。

○井出健治郎委員 少し、この知・徳・体とは的外れになってしまうかもしれません。先ほど村田委員さんがおっしゃっていた文化度とか、それから教育委員会の会議の中でおっしゃっ

ていましたが、草加のことについて、もっと知ってほしいと思っています。

私は、学力、学力と言っていますが、教科の学力も必要だけど、また別の余裕というか、自分が生まれ育って、ある時期には草加からどこかに離れてしまうかもしれないけど、草加のことを知らないとそれを伝えることもできないので、それはどういう形か分からないですけど、歴史なのか、現状なのか、いや、経済のことなのか分かりませんが、何か、もっとふるさとというか、草加のことというのを、ちょうどこの時期に、義務教育とか連携の時期に、もっと伝えることというのはしておいたほうがいいのかなと思います。

○田中和明市長 新人職員の研修の中で、市長講話というのが30分ほどあるんですが、ほとんど草加に住んでいない職員が多いです。それで、まず草加を知ろうよと。草加の煎餅、どんな煎餅屋さんが何軒あるのと言われても、なかなか思い付かないから、草加に煎餅屋さんが何軒あるのか、その辺は知っておいたらいいとか、先ほど言った金明町の歴史とか、あるいは松並木の歴史も、開宿400年経っていて、そのときに植えられたとか、綾瀬川の改修で植えられたとか、いろいろな説がありますけれども、今、日本の名勝として、「おくのほそ道の風景地 草加松原」という国の指定になっておりますので、そういうところを子どもたちに知らせていくこと、そこから始まっていくと思います。

小学校1年生に配布しているお宝かるたや、4年生に配布するおくのほそ道を題材にしたものもありますけど、その辺でもう少し、草加のことをPRするようなものを作る必要があると思います。それで子どもたちに受け継いでいく、草加の文化というものを発信していくというのが、勉強だけではなくて、人間としてということが必要かなと思います。

○高木宏幸教育長 今のことに少し関連するのですが、先ほど教育委員会の後の意見交換の中でも話題にしたのですが、実は、私も同じことを考えていて、要するに義務教育を終えて、いろいろ巣立っていきますけれども、草加のことをよく知って、そしてまた、草加のよき、それを誇りに思って巣立ってもらいたい。そして、また、大人になって、草加の中のまちづくりに関わって、「ふるさと草加」のために活躍できる、そんな子どもたちになってほしいなと思っています。

そういう意味では、今、お話にあったように、いろいろな材料がありますよね。お宝かるたもあるし、「おくのほそ道」もあるし、草加松原もあるし、文化財もあります。それから、よく町会連合会の会長さんから「草加音頭というのがあるけれども、子どもたちは知らないよね」というようなこともあります。そういった、様々な素材を一つの、例えば「ふるさと草加」を学ぶべき学習内容というので、小学校1年生から中学校3年生まで、無理のない形で学んで

いくことによって、草加を知り、草加を愛し、そんな子どもたちになって、そしてまた大人になって、まちづくりに大いに関わってもらいたいと、そんなふうになればと思っています。教育委員会でも検討して、具体的な形として考えていきたいなと思っています。

○田中和明市長 本でもビデオでも、何か残して、子どもたちがすぐ見られるような形ですね。それはいいですね。あの丸木舟も、本当に埼玉県で一番古い丸木舟があるわけですから。子どもたちは歴史民俗資料館には行っていると思いますが、それは一回でおしまいですよ。何年生が行っているのですか。

○高木宏幸教育長 多く行っているのは3年生ですね。

○田中和明市長 それで、1回でおしまいですものね。

○高木宏幸教育長 はい。

○田中和明市長 何か残せるものを作ればいいですね。

○高木宏幸教育長 先ほど冒頭で、心の教育、徳のところで、少年事件のことも出ましたけれども、やはり命の大切さというのを本当にしっかりと、その発達段階に即した学びというのを作っていきなと考えています。今、いろいろな形で命の教育というのをやっているけれども、その中でも造血幹細胞移植、これは今年からは全小中学校で、小学校は授業で、中学校は日赤の方にお話をさせていただいて、命の大切さを学ぶという形で進めています。これは本当にいじめの問題にも関わるし、思いやりの問題にも関わるし、自己と他者を意識するという意味では、この命の大切さというのをいかに学ばせるかというのは、本当に重要な、人間として根本のことに関わるのではないかなと思っています。これも先ほどのふるさと学習と同じように、小1から中3まで発達段階に即した形で命の大切さを学ぶような、そんな教育活動がしっかりとやれたらと考えていて、検討をしていきたいと思っています。

○田中和明市長 よろしくお願ひしたいと思います。

他には何かございますか。知・徳・体に係る部分については、以上でよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○田中和明市長 限られた時間の中で様々な観点からご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

私自身、本日、教育長や教育委員の皆さん方と意見交換させていただきまして、本市の子どもたちのための取組が積極的に展開されていることを今まで以上に感じる事ができました。今後も草加の子どもたちのためにお力添えをお願いできればと思っております。

委員の皆さん、他には特にございますか。よろしいでしょうか。

委員の皆さんから特になければ、事務局に司会を渡します。よろしいでしょうか。

では、事務局、お願いします。

○小林総合政策部長 田中市長、それから教育長、教育委員の皆様、ありがとうございました。

本日いただきましたご意見を踏まえ、今まで以上に市長部局と教育委員会とで課題解決に向け、協力しながら取り組んでまいります。

◎閉会の宣言

○小林総合政策部長 以上をもちまして、平成28年度第1回草加市総合教育会議を終了いたします。皆様、本日はお忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございました。

午後4時37分 閉会

市長 田 中 和 明

教育長 高 木 宏 幸